



J R 連 合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を！！

2022 年度

No. 1

2022年6月22日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連 合 第 32 回 定 期 大 会

J R 連 合 結 成 3 0 年 を 次 代 へ の 起 点 に 据 え J R 産 業 の 持 続 的 成 長 と 組 合 員 ・ 家 族 の 幸 せ を 実 現 し よ う ！

J R 連 合 は 6 月 14 日 か ら 15 日 に か け て、東武ホテルレバント東京において第 32 回定期大会を開催した。3 年ぶりに東京における 2 日形式での開催とし、感染症対策をとりつつ、リモート併用の議事運営を行った。



大会には、来賓として連合の芳野友子会長や交運労協の住野敏彦議長、交運共済の松岡裕次理事長、榛葉賀津也参議院議員をはじめとする J R 連合国会議員懇談会所属議員 8 名に加え、第 26 回参議院議員選挙を控える比例区重点候補の川合孝典参議院議員、矢田わか子参議院議員、しば慎一予定候補、竹詰ひとし予定候補（リモート）らを迎えた。

議事では、会場に参集した代議員及び傍聴者など約 170 人が、熱心かつ真摯な討議を行い、2022 年度の運動方針を満場一致で決定した。

冒頭、挨拶に立った荻山市朗会長は、2 年半にわたるコロナ禍により J R 産業が疲弊し離職者が増加している現状に触れ、「早期の需要回復にむけ連合・交運労協との連携を一層強化し、サービス連合や航空連合とともに展開する 3 産別共同行動に引き続き取り組む」決意を述べた。その後、安全の確立、組織の強化・拡大、産業政策、労働政策、政治活動の 5 点に亘って課題認識や各種取り組みに係る考えを提起した。

議事では 2021 年度の経過を報告するとともに、第 4 次男女平等参画行動目標や新たな政策提言の策定、30 周年記念行事、新・中期労働政策ビジョン策定開始、組織強化など、新年度の運動方針について提起がなされた。その後、昨今の J R 北労組や貨物鉄産労における多くの組織拡大に関する報告をはじめ、計 12 名の代議員・特別代議員から安全確立、組織拡大、政策活動・政治方針、男女平等参画、こくみん共済 coop へのスムーズな契約移転等に関する質疑・発言があり、執行部から答弁・総括答弁を行った。総括答弁では政所大祐事務局長から、「現在は産業の大転換期にある。J R 産業の可能性を切り拓くべく、安全をはじめとする様々な課題に、連携して取り組もう」と力強く訴えかけた。

その後、すべての議案と大会宣言が採択され、荻山会長の「団結がんばろう」で、J R 連合発足 30 年の節目となる新年度へのスタートを切った。

その後、すべての議案と大会宣言が採択され、荻山会長の「団結がんばろう」で、J R 連合発足 30 年の節目となる新年度へのスタートを切った。

< 添付資料 > 大会宣言

大会宣言—(案)—

私たちは本日、「東武ホテルレバント東京」で第32回定期大会を開催し、2022年度の運動方針を満場一致で決定した。

長引くコロナ禍、さらにはロシアのウクライナ侵攻等の影響も加わり、私たちを取り巻く環境は極めて不安定かつ流動的で、先行きが見通せない状況が続いている。本年5月に結成30周年の節目を迎えたJR連合に集う私たちは、現在を国鉄改革に並ぶ時代・社会・産業の大転換期にあると認識し、経験則のみにとらわれず、すべての仲間が生き活きと働き、明るい将来展望を描ける状態を一刻も早く取り戻し、あるいは新たに創り上げていかななくてはならない。JR連合は、本年10月に開催する「JR連合結成30周年記念行事」を通じて、JR産業のあり方や、JR産業が持つ「可能性」と社会で果たすべき役割等を発信し、関係各方面に対するあらゆる働きかけを展開する。

その大前提となる安全の確立については、いかなる経営環境・経営状況にあろうとも、事業運営の根幹であり、福知山線列車事故をはじめとする重大事象から得た教訓を決して風化させず、悲劇を絶対に繰り返さないという決意を改めて強く心に刻み、運動を推進しなければならない。5月に開催した第12回安全シンポジウムにおける討議から得た知見も活かし、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の完遂に向けた取り組みをいっそう深度化する。様々な施策の推進と技術革新の利用・導入に際しても、働く者としてチェック機能を果たし、建設的に関与していく。

組織の強化・拡大については、「JR連合ビジョン」の実践を通じてJR連合への総結集をめざす。長引くコロナ禍で将来を不安視する仲間徹底して寄り添い、共に歩み続け、解決に向けた道筋を求め続ける。そして、民主化闘争の取り組みを一層深度化し、JR北労組・貨物鉄産労で生じているJR連合への総結集の動きを一層加速させ、未だ集团的労使関係の庇護の下にないJR産業で働くすべての仲間にも連帯の輪を拡げていく。

産業政策については、コロナ禍によるダメージからの回復を図りつつ、アフターコロナを念頭においた中長期的な視点で未来を見据え、JR産業の持続的成長をめざす。すでに発生している社会変容をはじめとする内外の変化を好機と捉え、次代を創るための踏み込んだ提言を発信する。また、その実現に向け、すべてのJR労使と一層の対話を重ね、連合や交運労協、および行政や政治などの関係主体とこれまで以上に連携を深める。そして、来る第26回参議院議員選挙をはじめとする各種選挙において、私たちの運動に共鳴する候補者の必勝に向け総力をあげて取り組む。

コロナ禍での一時帰休の実施や内外への在籍型出向、リモートワークの拡大、および技術革新の進展等に伴い、私たちの労働環境は激変した。人財流出に歯止めをかけ、働き続けることにより魅力を感じられるJR産業を創るべく、前回大会で提起したポストコロナ提言を深度化させ、「中期労働政策ビジョン」改訂の取り組みをスタートさせる。加盟単組、およびJR産業を構成するすべての事業者と共有し、あらゆる労働条件・環境を改善・向上させる取り組みを推進する。

国鉄改革に並ぶ大転換期である今こそ、JR産業内のすべての企業間と労使間で確かな信頼関係を築き、「ONE TEAM」とならなければならない。JR連合は、本定期大会で決定した運動方針に基づく活動をすべての加盟単組、組合員が一丸となって取り組み、JR産業の持続的成長と組合員・家族の幸せ実現に邁進する。

以上、宣言する。

2022年6月15日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）
第32回定期大会